

第2回旧第一銀行横浜支店サウンディング型市場調査 対話概要

「創造都市」や旧第一銀行に感じる可能性や期待等
世界レベルのデザイナー・クリエイターが集まっている街にしたい
生の創造産業に触れる場とし、新たな創造産業を生み出す場にしたい
クリエイティブシティ・ヨコハマの中心的な施設。いろいろなシーンの受け皿になる場所、1つの決まったことに使い続けるより、いろいろな使い方ができる
市役所の隣であり、周囲で活動している方々とのネットワーキングがあり、そのハブとして、場の力がある
アートを活性化した街のブランドは100年経っても色褪せない。施策の継続が重要
アフターコロナに必要なコミュニティづくり、より大きなカルチャーの発信拠点
「アート」というキーワードに希少性、話題性は難しい
回遊性が良くないと思うので、わざわざ来る仕掛けが必要
地域ごとに特徴が異なる横浜で、創造都市の蓄積を生かしセンター機能として何を発信できるかが大事
人が生き生きと過ごすことで良さが発揮できると思う
多様なコラボレーション
芸術文化の集積と産業の結びつけが必要
映像文化都市事業のブランディング、ビジネス化に可能性
クリエイター、アーティストが集まる地域はほかになく、伸ばしていくべき
さまざまなアーティストがそれぞれの知見を生かして継続しているところが良い

活用内容
市民に開かれたクリエイティブライブラリー。驚くような仕掛けをしたい
デザイン、アートの体験、発信、集積の拠点、相談機能、オープンオフィス
STEAMを主軸に、芸術の周辺にある産業、教育、アートから地場産業のビジネス、循環型経済が生まれるような施設。出会う、つくる、お披露目の3つの要素で構成するコミュニティ
創造界隈のコンシェルジュ的役割
カフェ&レストラン(横浜ゆかりの洋食)、ウェディング、スペースレンタル、アートギャラリー
アーティストやクリエイターのハブ
カフェ、アートやカルチャーの発信拠点、物販、ギャラリー
デジタルアートミュージアム、ファンコミュニティ(イベント、物販)、洋文化体験施設
世界の事例を参考に、どこでも行われていない歴史的建造物の再活性
実験的ライブラリー、横浜の物産を中心とした文化的マーケット(展示、販売)
市内アーティスト・クリエイターと連携した横浜文化の発信拠点
文化財ギャラリー、映像系展示
バレエ、ダンスパフォーマンス等のスクール、発表の場、クリエイティブ系のイベントやワークショップ
映像文化の国内外への発信(配信ライブスタジオ、ミニシアター)
スポーツを切り口に人が集まる交流できる場所
ペーパー・クラフトミュージアム

館外活用
アートの古本市、会社の商品展示、クライアントの製品展示
主要なイベントを行うときに、街ににじみ出ていくような使い方
オープンカフェ、アートインスタレーション展示等
ファーマーズマーケット
プロジェクションマッピング、アートの展示
家具メーカーとタイアップしたベンチプロジェクト
マルシェ、オープンカフェ、ポップアップストア等
館外展示・体験
イベント用テントを置くなどしてみたい
国際イベント等
イベントに合わせた販わいづくり
展示、参加型ワークショップ

収支見込等
収益性は不要(自社事務所を入れて、その他空間を開放)
イベント、スポンサーとの協働、スペース貸しで収入を見込む。よいスポンサーを探したい
収支の見込みは立っている
無償貸付ならできることの幅は広がるが有償貸付ならそのつもりで事業を計画する
賃料を見て収支を計画する
収益を上げることを目的としていない
大きな利益は期待していないが、賃料を含めたコストがわからないと難しい
有償になると収益性が厳しい
無償、事業費・維持管理費の補助もないと難しい
無償貸付希望、事業費、維持管理費の補助は不要
この場所で収益事業を行うつもりはないので、無償貸付希望
収支は未定。補助なしには困難

活用期間等
10年以上(長期希望)。根付いていくにはそのくらいは必要
10年以上。コミュニティづくりにはそれなりの長期活用が必要
10年程度
事業内容により、10年か5年
20年
長期はリスク
20年を想定(中間評価を行い、双方協議のうえ、解約できる条項を設ける)
5年~10年
10~20年(5年で見直し)

課題等
収益事業として考えていないため、大きな課題なし
良いスポンサーを得たい
改修がどの程度許されるか、音漏れや振動がどうか
商業地として、良い立地ではない。魅せる装飾など、内装変更が必要
フロア構成が難しい。スペース効率が悪い
アクセシビリティの確認が必要
吸排気のチャンバーの機能
事業性が不透明
初期投資の資金のため協賛、施設運営のため協働事業者が必要